

# としょかんNEWS 第86号



2014年5月15日  
湘北短期大学図書館

## 2014年購読雑誌、選抜総選挙！結果発表

今年も新入生対象に雑誌の購読に関するアンケートを実施し、ランキング上位の雑誌を図書館で購読します。投票の結果、「non-no」「ViVi」「JELLY」「Men's non-no」に決まりました。

### ● 雑誌人気ランキング

#### <女子>

	雑誌名	得票数
1	non-no	213
2	ViVi	170
3	JELLY	114
4	CanCam	100
5	mini	88
6	Zipper	87

#### <男子>

	雑誌名	得票数
1	Men's non-no	15
2	FINE BOYS	7
3	Men's JOKER	6

## 読書ノートでポイントを集めよう！

湘北短期大学図書館では、みなさんが読んだ本についてメモをする習慣をつけることをオススメしています。そのために便利なのが「読書ノート」です。

この記録を続けていけば、自分が学生時代にどんな本を読んだか、その本から何を学んだか、どんなところに感動したか、振り返ることができます。また、レポートやゼミの参考文献リストとして活用しても便利！就職活動の際にエントリーシートや面接で自己PRするときにも役立ちます。ぜひチャレンジしてみてください。

### ● <読書ノート>をポイントに交換するには・・・

- ① 図書館で配布している<読書ノート>に読んだ本の感想を記入してください。
- ② 1シート(6冊もしくは4冊)記入したら、カウンターで提示してください。ポイント付与します。
- ③ 貯まったポイントは、1号館1階の引き換え機で各種チケットに交換できます。

### ● ポイントの対象になる本については、下の表で確認してください

対象	対象外
・文芸書 (児童文学・詩集・名言集を含む)	・マンガ
・実用書	・雑誌
・学術・専門書	・カタログ
・文庫	・資格試験
・新書	・料理の本
	・手芸/工作/スタイルブック
	・イラスト/キャラクターブック
	・絵本
	・写真集
	・占いの本
	・図鑑/事典
	・旅行ガイド

みなさん初めまして。初めてリレーエッセイに登場します。保育学科 図書委員の多胡綾花です。どうぞよろしくお願い致します。

本好きという訳ではないので、これまで登場してこられた方々のように、素敵な本は紹介できませんが、5歳になる息子がいる私は子育て真最中のママ。息子のおかげで、絵本に触れるたくさんの機会があります。昨年年中だった息子のクラスで大流行を巻き起こした絵本を紹介したいと思います。

本のタイトルは『おしいれのぼうけん』(童心社)です。少し長めのストーリーで、文字が多く、黒色だけで描かれた絵はリアルで、ちょっと不気味です。なぜこの絵本が子どもたちに人気なのか、疑問に思ったくらいです。舞台はとある保育園、いたずらして、お仕置きとして押し入れに入れられてしまう主人公たち。真っ暗な押し入れの中でねずみばあさんと出会い、ねずみばあさんから逃げながら、大冒険するというものです。

怖いけど見たい、会いたいと感じさせるねずみばあさんの存在。子どもたちは、この本

の世界にどっぷり浸り、ねずみばあさんを探しに行きたいと言いついたそうです。その思いを受けて、「ねずみばあさん探し」と称して生田緑地に出かけて下さった担任の先生。いつものお散歩がわくわくドキドキの大冒険となりました。そのブームはどんどん広がり、夏祭りの山車の制作物から運動会の競技にまで及びました。子どもたちのイメージする世界に共感し、それを広げていけるように環境を整え、遊びに広げて下さる保育者の先生の感性や発想力にただただ驚くばかりです。



夏祭りのねずみばあさん山車

『おしいれのぼうけん』古田足日・田畑精一作(童心社)

和田重正先生のエッセーを初めて読んだのは高校2年のことであつたらうか。先生の私塾の出身者であつた中山信作氏という方が、先生の本を出すために教育図書出版社として著名であつた国土社の編集長を退いて、みずから柏樹社を起こしたと聞いていた。その最初の刊行物が『葦かびの萌えいずるごとく』であつた。

中山氏は著者と読者をつなぐものとして「まみず会」なるものを作り、『まみず』という冊子を発行するようになった。私はそこに連載された先生のエッセーを読んだのであつた。当時、バックナンバーを取り寄せたところ、それは1966年5月号であつた。奇しくも、その号から先生の「よい学校」の連載が始まったのだ。

その冒頭は「よい学校を作りたい。ほんとうのよい教育のあるよい学校を作りたい」という一文から始まる。私はこの一文に心惹かれたのであつた。先生は「学校では『斯く生きるべし』『斯くの如くに生きるべきだ』ということを目にタコができるほど教えられまし

た」と述べ、「もの心ついて以来十六年間も大袈裟な教育を受けていながら、一番肝心なこの自分が生きてゆく道を知ることができなかったとは何という悲惨事」と思われ、「真実の生きる道について何も教えない学校は『よい学校』ではありません。私は自分の苦しみの体験から、後から来る人のために、どうしても『よい学校』を作らなければならない」と決意されたのだ。また、別の個所では「よい指導者が欲しい！」と渴望されたことを記している。

今回は「指導者」ということに言及したい。昨今、「指導」を「支援」という言葉に置き換える傾向がある。私は双方の言葉にそれぞれの意味があると考え、指導者とはどのような存在なのか？後年、先生は「同行教育」を唱えられた。「同行」とは仏教で法(真理)を求めて共に歩む法友を指すことから、「同行教育」は先生も生徒も、親も子も、真理を求めて共に歩む「同行」の関係にある教育を意味している。

上から目線の指導者など願ひ下げだ。